

留学先大学：ヴェネツィア大学留学先での所属学部・研究科：Humanities留学先での在籍身分：International Exchange Student留学期間：2012年9月～2013年6月神戸大学での所属学部・研究科：人文学研究科学年（出発時）：修士2年本報告書記入日：2012年12月1日

出発前

どのように情報を集めましたか。参考になる本やホームページがあれば、記入してください。

イタリア留学経験のある先輩たちや、各種ホームページから情報を集めた。

住居について

・住居のタイプ：大学寮 アパート ホストファミリー その他（具体的に）_____

住居（寮、アパート）の名前：Residenza universitaria Junghans

・部屋の種類：一人部屋 二人部屋 その他（具体的に）_____

・ルームメイト：現地学生 留学生（出身国：_____） その他（具体的に）_____

・どのように探しましたか。：大学の斡旋 自分で探した その他（具体的に）_____

・大学までの通学時間・手段：20分、水上バス・徒歩

・住居の周りの環境はどうですか。：

観光地から離れており、夜は非常に静か。水上バスは夜間も運航しており、ヴェネツィア本島から離れていることに関しては、不便は感じない。

・毎日の食事はどうしていますか。：

寮のある島には、大学食堂もスーパー・マーケットもあり、食事は主にそれらで済ませている。

・住居は渡航前に、または渡航後すぐにみつかりましたか。トラブルはありませんでしたか。：

特になし。

大学の授業について

1. 履修登録について

・履修登録の時期：出発前 到着後

・履修登録の方法：On-line International Office等の仲介 その他（具体的に）_____

・登録時に留学生として優先・配慮されることはありませんか。：無し 有り

・優先・配慮があった場合、具体的に教えてください。

・希望通りの授業が履修できましたか。：はい いいえ

・希望通りの授業が履修できなかった場合、その理由を教えてください。

備考：今までのところ、自分の研究との兼ね合いもあり、授業には参加しているが期末試験を受けたことはない。そのような意味では、正式な履修をしたことはない。授業への参加に関しては、とりわけ留学生だからといって何らかの問題が発生することはない。

2. 現在までに、履修している授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数／週	留学先での単位数	履修している学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。
1	近世社会経済史	Luciano Pezzolo	4時間半	6	約10人	以下、Pezzolo教授の授業では、会話が重視され、留学生にも頻繁にイタリア語で質問がなされる。
2	近世史	同上	同上	同上	7・8人	
3	近世グローバルヒストリー	同上	同上	同上	約30人	修士課程の授業。単位取得のためには、期末テストに加え、授業内のプレゼンテーションも求められる。
4	近現代軍事制度史	同上	同上	同上	約20人	同上
5	ヴェネツィア共和国史	Claudio Povolo	同上	同上	約50人	
6						
7						
8						
9						
10						

3. 授業（カリキュラム等）について クラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

現地の学生たちは非常に熱心であり、授業中に居眠りなどしている姿は全く見られない。他方、教室内の空調設備やAV機器が故障していることが多い。

一週間のスケジュール（授業時間、課外活動等、毎日の生活を記入してください。）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00							
9:00	授業A	授業A	授業A				
10:00							
11:00	授業B	授業B	授業B				
12:00	昼食	昼食	昼食	昼食			
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食		

現在までの感想　自由に記入してください。(800字～)

現在までのところ、不自由なく留学生活を送ることができている。

研究面に関しては、主指導教官がとりわけ熱心に指導をして下さっているので、有意義な研究生活を送ることができている（もっとも、各教官によって対応は様々であろう）。現在は、主指導教官の授業に参加しつつ、彼と個別で自分の研究をすすめている。イタリアでは、いわゆるゼミ形式の授業は存在しないので、文字通り1対1の指導が留学生に限らず一般的である。授業のイタリア語に関しては、以前から歴史関係のイタリア語論文を読んでいたこともあり、かなりの程度理解することができている。他方で、語学学校や日常会話におけるイタリア語に関しては、当初は苦労していたが、語学学校における学習の成果もあり、次第に理解ができるようになっている。また、ヴェネツィア大学はイタリアでも有数の日本研究の中心だということもあり、多くの学生が日本語を学んでいる。それゆえ、学生の日本人に対する態度は友好的であり、彼らとの会話も私のイタリア語の向上に貢献しているであろう。

生活面に関しても、ここまででは目立った問題は起こっていない。食事に関しては、ほぼ毎回、学生食堂を利用している。そこでは、決められたコースで、1食3.7~4.7ユーロで食事をすることができます。私は気にならないが、量の多さが気になる日本人留学生もいるようである。寮に関しては、時折、他の学生たちが騒がしいことがあるものの、基本的には静かであり、落ち着いて生活をできている。ただ、私は1人部屋なので問題はないものの、外国人のルームメイトと生活している日本人留学生の中には、生活習慣の違いに戸惑いを感じている者も何人か見受けられ、結局、住居を変更することになった留学生も何人かいる。ヴェネツィアの気候は神戸よりも寒冷であるが、私は北海道の出身なので、あまり問題を感じてはいない。ただ、冬になると頻繁に高潮が発生し、道の至る所に水溜りができるので、防水加工された冬靴は日本から持って行った方がいいように思われる。

最後に、公共機関や大学の事務的サービスに関しては、人によって対応・説明が全く違ったり、その後の連絡が一向になかったり、郵便が届かなかったり等、多くの問題が私を含めた日本人留学生に起こっている。ただ、それを嘆くだけではどうしようもないで、イタリアでは、自ら積極的に、直接事務員に行動を促していくことが重要であるように思われる。また、このことも含めた生活全般において、初めから日本とイタリアとの間には違いがあることをしっかり念頭に置いておけば、問題に対しても穏やかかつ冷静に対応ができるのではないだろうか。